

縁を育み、命を生かす

檀信徒の皆様を支えられ、真成寺は今年で開創五百年を迎える事が出来ました。『真成寺開創五百年記念祭』と銘打ち、十月二十八日「プレイベント」。十一月三日「前日祭」。

そして十一月四日「記念法要」を開催いたします。「慈しみ・笑み・和み・過現末（かげんみ）過去・現在・未来」というテーマを掲げて、これまでの五百年、そしてこれからの五百年を見据えた意味内容の濃い行事を、檀信徒実行委員会を中心に、地域社会を挙げての行事に仕上げたいと意気込んでいます。実行委員やボランティアお手伝いして下さる皆様方に都度お声掛けさせていただいておりますが、何卒、周知ご協力のほど改めてお願い申し上げます。また、「お稚児さん」や「一文字自我偈写経」のご参加申込もドシドシ受け付けております。詳細など、お気軽にお問い合わせください。皆様のご参加よりお待ち申し上げます。

●【後世のために…】

冬期間は雪に埋もれ休業していた「トロツコ電車の黒部峡谷鉄道」が開通し、黒薙川や後曳橋、猿飛峠、鐘釣温泉など数々の名所が春の訪れを伝えてくれています。色づき始めた木々の緑、爽やかな溪流の風、私達の心を優しく包んでくれています。この大自然の中で身も心も解放

すると聞こえてくる先人の思い…。

「樹木を植うるや、三十年を経ざれば、則ち材を成さず。宜しく後世のためにこれを植うべし。今日用いるところの材木は則ち前人の植うる所。然らばなんぞ後人のために之を植えざると得ん《樹木を植えて、三十年たたなければ材木にはならない。だからこそ後世のために木を植えるのだ。今日用いる材木は、昔の人が植えたものだ」とすれば、どうして後世の人のために植えないでよからうか》（二宮尊徳翁）。

今月5日は、二十四節気の第九

『芒種（ぼうしゅ）』です。

「芒種」とは、芒（のぎ）のある穀物、稲や麦など、穂の出る穀物の種をまく季節という事から「芒種」と言われているそうです。

仏教詩人・坂村真民氏の「あとから来る者のために」という詩の結びの言葉が心に響きます。「あの可愛い者たちのために、みなそれぞれ自分にできる、何かをしてゆくのだ」と。

明日のために、未来の子孫達のために何を残せるでしょうか？ 明るい希望に満ちた世界を示し残したいものです。子孫の富貴は自己の勤労に在りという程の気概で、日々の一々に臨む心持ちが大切と言えましょう。

●【感動が人を変える】

僧侶として、各方面からお話の御依頼を頂戴する機会も多くございます。御寺院をはじめ、医療関係、教育関係、企業の新入社員研修、あるいは子供対象のこども食堂やグリーンフケアなど場

所内容など多岐に亘ります。近年では臨床カウンセリングとあって、今日明日にでもお亡くなりになれる末期ガン患者さんと対面でお話しさせて頂いたり、乳癌患者さん対象の講話会だったり、自身が経験したことのない相手を対象にお話しさせて頂く機会も増えました。経験したことのない相手に、ある特定の問題について自分の考えをお話する時ほど、難しい事はないと思います。ただその時々で大切にしている思いが、言うべき時に言うべき事を言わなければいけないという信念です。

こういう経験をしました。十二月十四日に大学の三年生、四年生の就職を間近に控えた若者に話をしてくれという事で、ある大学に向きました。学生五百名くらいを相手に話をしたんですが、キャンパスに入ってまず驚いたのが、至る所にタバコの吸い殻が落ちていてということでした。そしてその吸い殻を、私を連れて行った教授が拾っている。そんな教授の姿を見た学生は知らん顔してる。こういう光景を目の当たりにして大変驚きました。そんな彼らへのお話は、こういう話から入りました。

「今日、十二月十四日はどういう日なのか知っている者はいますか？」と質問した。皆一同にキョトンとしている。「忠臣蔵って君知っているやろ？」と質問したら、またシラーっとしている。最近の若者は忠臣蔵も知らないのかな？ と思いながら何を話したかと言

えば、「四十七士」の話をしました。十二月十四日に講演会が決まっていたので、四十七士を事前に色々調べていきました。そして「四十七士の中で、二十代までの若者が何人いたのか？ 十五名が二十九歳までの若者でした。その十五名の若者が、ブレない信念を持って、命を賭けて天下の正道を立て直そうとした。そして散っていった。君達の年代はまさにそういう年代なんだと。その事を先ず弁えてほしい…」という話から入っていききました。「ところで、このキャンパスに来て驚いたことがある。

至る所にタバコの吸い殻がある。吸い殻っていうのは、自分から灰皿には行かないな。誰が持って行くんだ？ 先生か？ 吸った人間が持って行かなくて、誰がそれを捨てるんだ？ 社会に出て通用しないことを今からするな！」ということを、かなり厳しく彼らに言いました。

そして話が終わった時に、なんと学生全員から拍手が湧き起こったんです。その時に思いました。やっぱり言うべき時に言うべき事を言わなきゃいけないな、と。いま学校教育がおかしくなったのは、やはり言うべきところで言っていないのではないかと思います。これは家庭教育においてと同じですね。PTA会長として今どきの母親と密に話し合うのですが、一昔前と今とは親子の関係も大分変わってきたなあと感じます。親の権威は完全に失墜してし

まい、子供の目線に合わせるのではなくて、子供と同等の目線でやり合っている親御さんも珍しくありません。目上の人への敬意が無くなったのは、子供達だけの責任ではありません。敬意を表すことが出来ない親御さんの姿がそこにあるからです。

何かを伝えたいという思いがあるのなら、伝えたい相手の心に届かなければ意味がありません。それは、ただの小言としてすり抜けていきます。信仰することの意義を語る僧侶として、檀信徒に教えを垂れる場合も同じで、檀信徒皆様の心に響かなければ、それを信仰に変えることは出来ないという事でしようね。

●【環境と教育】

人間は万物の中で最高の知能を持っていることは誰も疑わないわけですが。オランウータンよりもチンパンジーよりもゴリラよりも知能は高い。ところが今我が国で起っている事は、その人間が、動物にも劣ることをしてしまっています。親が子供を殺す、子供が親を殺す、兄弟が殺し合う。何の縁もゆかりもない人を、ほんの些細な事情で殺める。動物が他の動物の命を奪うのは、自ら生きる為か、あるいは自らの命が脅かされた時だけです。しからば、なぜ最高の知能を持っている人間が動物よりも劣ることをするのだろうか？その原因として**環境と教育**が挙げられるのではないかと思います。この2つが備わらないと、残念ながら

人間といえども、動物もしくは、それ以下に成り下がっていくのではないかと思います。ここに1つの事例があります。

大正9（一九二〇）年に、インドの山中で狼に育てられた2人の女の子が発見されました。歴史上有名な話です。おそらく親が育てる事が出来ず山に捨てたわけですね。普通ならば獣に食い殺されても仕方のないことですが、どうしたはずみか、狼が自分の子供として育てていたのです。発見された時の下の女の子の推定年齢が1歳半、上の子が8歳。名前を付けました。下の子に**アマラ**、上の子に**カマラ**。この子供達を牧師さんの夫婦が育てようとしたのですが、昼間は居眠りばかり、夜になると徘徊しだして、食事を与えると一切手を使わず、口でそのまま食べようとする。人間が近づくと、牙はありませんが歯をむき出して威嚇をして、唸り声をあげる。つまり体は人間の体なんです。やることはまさに狼そのものの。そして数年のうちに、2人とも人間に戻れず死んでしまうわけですね。何を意味しているのでしょうか？最高の知能を貰った人間といえど、環境と教育が整わないと残念ながら人間に成り得ないということではないでしょうか？先般も二十年間戸籍のない人が犯罪を犯しておりましたが、やはり人間にとつて環境と教育がどれほど大事かと大変強く感じるわけです。そういう意味で私達は、良き環境と良き教育に恵まれていると言えますの

で、その与えられた知能を最大限良い方に発揮するということが、私達に課せられた責務と言えるのではないでしようか。

●【周囲の景色は、心の鏡】

一人の青年が列車に乗ってある街にやってきました。駅で駅員さんに、「駅員さん。この街の人はみんな、意地が悪くて、住みにくい街だそうですね？」と質問をしました。駅員が答えました。「君の言う通り、この町は物騒です。どうか気をつけて旅をして下さい」と言った。そして青年は街の中に入ってきました。しばらくして、別の青年が同じ街に列車でやって来ました。同じ駅員に質問をしました。「駅員さん。この街の人達はみんな良い人達ばかりで、暮らしやすい街だそうですね？」と。駅員は答えました。「君の言う通り、この街は良い街です。みんな親切な人達ばかりですよ」と答えました。青年は街の中に入ってきました。ここで読者の皆様に質問です。2人の青年の正反対の質問に対して、駅員はどちらにも「YES」と言った。どうしてでしょうか。駅員は嘘をついたのでしょうか。駅員はどちらにも嘘を言ったわけではありません。つまり、青年がもしこの街の人達はみんな物騒な人達だと思つて、街の人達と接したら、街の人達もそのように対応してくるでしょう。逆に、みんな良い人達なんだと思つて接したら、街の人達もそのように対応してくるでしょう。街の人達が良いとか悪いとかではなくて、こち

らの姿勢が、そのまま相手の姿勢になる。つまり相手の責任ではなくて、こちらの責任なのです。人間関係というのは、相手のせいになっている限り、なかなか解決致しません。もしも悪いとするならば、その原因は自分にあるのかもしれないと思うところに、人間関係を変えていく1つの方法があるわけです。

これができるのは修養の人です。修養は人間の要です。私達の心の奥底には「明德」、仏教で言うところの「仏性」が宿っています。また、四書五経の1つ『大学』で説かれているのは「修身齊家治國平天下（しゅうしんせいけちかこくへいてんか）」という事です。つまり、自分の行いを正すと、家庭がととのえられる。各家庭がととのえられると、次第に国が治まり、ついには天下が平和になるという当たり前の真理です。いま混乱する日本に大切なのは、個々人が修養の精神を帯すことこそが最も必要であると思います。

先祖先師が伝え繋げて下さった大切なものを見つめ直し、各人が身を修める努力を怠ることなく、日々精進くださいますことを心より祈っております。

合掌 副住職 谷川寛敬

